

# 「遊ぼう! あそぼう!! 海のこども広場」

## 実施報告書

東海大学海洋科学博物館

2007年度日本財団助成事業

## 1. 事業の目的

東海大学海洋科学博物館は水族館と科学博物館の要素を持ち、海洋に関する総合的な科学博物館として運営されている。東海大学は我が国で唯一の海洋学部を持ち、海洋に関する科学技術の教育研究を行っている。当館は海洋学部の教育研究に利用すると共に、海洋科学に関する知識を広く一般市民に啓蒙普及することを目的としている。

近年、さまざまな理由から自然の状態を保つ海岸線は減少し、身近な環境・生物学習の場であった海を利用する機会は年々減ってきているのが現状である。同時に環境の悪化や生物の減少などにより子供たちが海に親しむ機会も減少している。

当館では、子供たちが海に親しむ機会を多く持つように、また海や海洋生物に興味関心を抱くことを目指して、1999年より従来の見学学習にとどまらない体験学習プログラムを企画し、運用してきた。そこで、その経験を活用して本事業で海を対象とした体験学習プログラムを開発し、実施することを目的とした。

今回は、館内にリラックスできる、安全で快適な空間と時間を提供するとともに、そこで海洋生物に親しみ、海に触れるきっかけを提供するために「遊ぼう！あそぼう！！海のこども広場」を実施した。当館の来館者は未就学児童、幼児を含む家族連れが比較的多く見受けられる。そのような家族が海に関する遊具で遊び、学べる空間が必要であり、また時代的に子育ての場として子供を安心して遊ばせておけるスペースが博物館にも強く求められている。

海や海洋生物に関連した遊具、絵本、実際の貝殻等を設置し、楽しく遊ぶ中から自然に目を向けて環境について考えることのできる子供に育つこと、また理科離れが進み、生物に触れる機会の少ない子供が生物や海を身近に感じるにより、将来、海洋や海洋生物に興味を抱く動機付けになることを目的として実施した。

## 2. 実施内容

会場にはカラフルな色のカーペットを敷き詰めて楽しく暖かい雰囲気を出し、靴を脱いで来館者がゆっくりと利用できるようにした。また、会場中央には既存のクマノミ型テーブルを設置してメインのマスコットとし、その上で擦り絵や折り紙を実施した。テーブルの周りには、海の生き物のぬいぐるみや海に関する遊具を配置して、優しい雰囲気も演出した。広場の外側には休憩用のテーブルを3つ設置し、子供が広場に参加している際に保護者が休憩できるようにしたが、子供と保護者や家族と一緒に参加するのが理想であるため、休憩スペースは最少限に留めた。

当館での楽しい体験が今後、海を訪れた際にさらに海に親しむきっかけになり、環境や生物のことが家族間でのコミュニケーションの題材になれば幸いと考える。

## 擦り絵



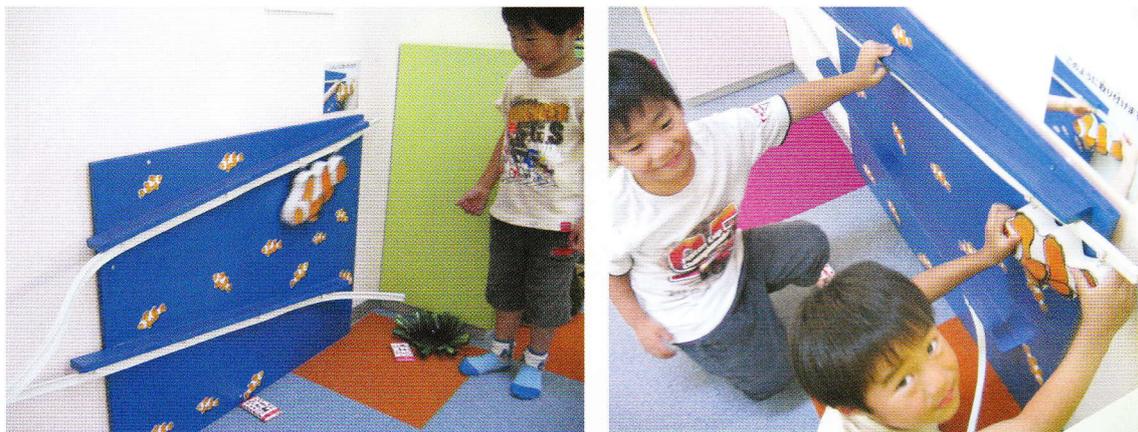
銅版にエッチングをかけて図柄の凹凸を付けたもので、紙を置いてクーピーなどの色鉛筆で擦ると板に付いている絵と同様の柄が浮き出てくるというシンプルなもの。筆圧や角度にもよるが絵は決まった形のものが浮き出てくるので、それぞれ同様の質で完成することができる。対象年齢は幅広く、1～3才くらいまでの幼児は保護者と協力して描画を楽しんでいた。4才以上の児童は単独でも実施が可能であった。絵を自分で浮き出させることにより生き物の形や様子の絵がより強く印象に残る。制作した絵は持ち帰っていただいた。

## ころころ絵合わせ 海の生きものパズル



サイコロのそれぞれの面に、当館で飼育されている生き物の写真を貼り付けただけのものだが、6つのサイコロから様々な生き物の写真を完成させることができる。完成した写真と実際の生き物を見比べて、動きや生態を観察してもらった。立方体のパズルから生き物の体の色や体の各部位の場所などをじっくり見ることができる。パズルのほかに積み木のような遊び方をしている幼児も見受けられた。

## クマノミコースター



カクレクマノミの模型がレールに沿って滑り降り、最後にイソギンチャク造型の中に入り込むという仕掛けになっている。カクレクマノミが危険を感じるとイソギンチャクの中に逃げ込む様子を再現した幼児向けのオリジナル遊具である。イソギンチャク的位置を変えて、カクレクマノミがうまく中に入るように参加者が調整する。まだ自分で模型をレールにセットできない0～3才位の幼児も保護者がセットしたカクレクマノミがレールを滑り降りる動きを見て楽しむことができる。イソギンチャク的位置調整が毎回微妙に異なるため、その都度イソギンチャクの中にカクレクマノミがうまく入り込むか、外れてしまうかという期待感が高かった。

## 海の生き物のぬいぐるみ



ホホジロザメ、タコ、チョウチョウウオ、ウミガメ、ホタテガイ、ウツボなど海の生き物のぬいぐるみを揃えた。ぬいぐるみの中に指を入れて足や口を動かせるものもあり、親子で遊ぶことができる。また生物の特徴を良く表しているため飼育生物とぬいぐるみを比較し、対象年齢は幅広く幼児から小学校低学年まで楽しんでいた。

## 海のカタカタ



はしご人形という、古くからある木のおもちゃの変形タイプ。6種類のクラゲの型は、垂直に立っている2列の棒に交互に当たりながらカタカタと落ちる。海へ潜っていく様子を真似て、棒の列の間に乗せるだけでカタカタと下に動く簡単なもので未就学児童向けの遊具として製作・設置した。自分で型を乗せることのできない幼児でもその繰り返しのあるリズムカルな動きとカタカタと鳴る心地良い木の音に惹きつけられていた。

## こどもすいぞくかん



大きめのパネルに水槽デザインを施し、魚型パネル（マグネット付き）を自由に貼り付けてオリジナル水族館を作ってもらおう。魚型には魚の名前を裏側に明記し、主なものは当館で飼育している生物なので、こちらも実際の生物と比較してもらうことができる。対象は乳幼児、幼児で保護者と共に遊ぶことができる。魚の種類が多さやそれぞれの色、形、名前等を乳幼児、幼児が保護者と共に始めて知る機会を得ることを狙いとした。

## 海のいきものになろう



プラスチックとダンボールで製作したタコ、イカ、クマノミの着ぐるみで、顔の部分が抜いてある。それぞれを壁掛けタイプにして、装着した児童たちの写真が自由に撮れるようにした。造型の周囲と装着したときの顔周りに安全性を施し、装着した後、児童が自由に動き回ることに重きをおいた。

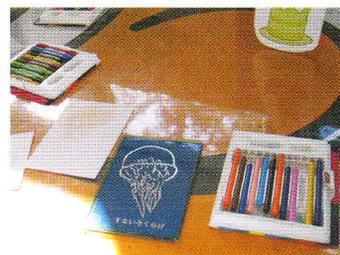
## タツノオトシゴのレプリカに挑戦



9月15、16、17日と10月6、7、8日いずれも土曜、日曜、月曜の3連休には「タツノオトシゴのレプリカに挑戦！」を実施した。当館で飼育されていたサンゴタツをシリコンで型取りし、型を製作した。使用した自由樹脂(特殊ポリエステル系樹脂)は60℃で柔らかくなる樹脂で、実施時にはお湯で柔らかくした樹脂を型に押し込む作業を参加者が行った。小さなお子さんでも簡単に押し込むことができ、数分間冷まして取り出すと実際の生き物と同じ形が再現されるので容易にレプリカを作ることができる。比較的簡単な作業なので2才位のお子さんでも作業が可能である。6日間実施しトータルで503個製作した。タツノオトシゴの形や目の位置などを学ぶことができる。

### 擦り絵の期間延長

「遊ぼう！あそぼう！海のこども広場」が好評であったので、予定の実施期間終了後の2008年1月2日（水）～1月6日（日）まで「擦り絵」を実施した。終日、クマノミテーブル上に擦り絵セットを配置して来館者に自由に行ってもらった。お正月も来館者も多く、盛況であった。



### 3. 結果

館内にリラックスできる安全で快適な空間と時間を提供するとともに、そこで海洋生物に親しみ、海を知るきっかけを提供することができた。未就学児童から年配の方まで、海の遊具で楽しい時間を過ごしていただくことができ、非常に盛況であった。楽しく安全に遊ぶなかから海や海洋生物を認識する良い機会を持つことができたと考える。幸いなことに当館は水槽内に実際に飼育されている生物を間近で観察することができ、広場内の遊具で遊んだ後に水槽まで行って再び広場まで戻ってくるという児童を多く見かけた。このことから、それぞれの内容がより強く印象に残り、今後、生物や自然に目を向け、様々なことに興味を持ってくれたと考える。

今回の催しにより、今までに少しずつ試作してきた海に関する幼児用遊具の質を高めて設置することができ、家族連れが多く訪れる当館にとっても非常に有益であった。今後も幼児用遊具の製作に努めていきたい。安心して子供を遊ばせることのできる場が少なくなっている現在、このような空間が強く求められており、博物館が子育ての場として利用されるには一層の充実が必要である。また保護者同士のコミュニケーションや気分転換などにも非常に有益であった。全体的に盛況であったが、貝殻を利用した遊具は破損することがあるため常に予備の確保が必要で、安全面からも細心の注意を払って今後とも製作に当たりたい。

安全で楽しく、海や海洋生物に対してなるほどと思える展示を数多く打ち出すことで来館者が海の素晴らしさ、楽しさを実感できるように今後も努力する次第である。

